

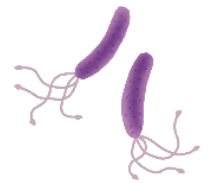


苦痛の少ない内視鏡検査を目指して

【消化器内科 菊池 弘樹】

皆さんはピロリ菌という言葉を知っていますか？

最近はその認知度が高まっており、知っている、もしくは聞いたことがあるという方のほうが多くなってきているのではないのでしょうか。ピロリ菌は胃潰瘍や十二指腸潰瘍、胃がんのリスクとして知られています。ピロリ菌に感染していると慢性胃炎の範囲が広がっていき、胃炎となった部位にがんなどの病気が出来やすくなるのです。



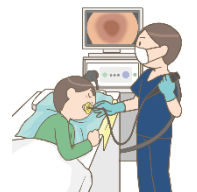
近年は若い人におけるピロリ感染率は減少傾向ですが、それでも一定の感染者がおり早めに除菌を行うことで将来の胃がんのリスクを減らすことができます(ただし除菌後も胃がんのリスクは消える訳ではないので定期的な検査が推奨されます)。



当院における胃カメラはドックを含めて、消化器内科の経験年数15年以上かつ年間700~1000件程度の検査を行っている医師、もしくは東北大学病院の上部消化管グループ(食道・胃・十二指腸専門)の医師が担当しています。

胃カメラは人によって程度は異なりますが大変で負担のかかる検査となり得ますので、そういう方には鎮静剤の使用なども提案しています。ただし鎮静剤には呼吸抑制などの副作用や、検査後に安静時間を要する、その日は車の運転ができない、などの制約があります。

鎮静剤が使用できないような方には、昨年末に当院で導入した最新の細径内視鏡をお勧めしています。先端は5.4mmと非常に細いカメラです。従来の細径内視鏡は画質が低く病変の見落としの懸念などから積極的にはお勧めできていませんでしたが、最新の内視鏡は以前までの通常内視鏡と同等の画質が得られるので通常の検査には十分対応可能となっています。



このように当院では負担の少ない検査を目指して様々な工夫をしています。40歳以上で今まで胃カメラ検査を受けたことがない方やピロリ除菌歴のある方などは積極的に胃カメラ検査を検討しましょう。





について



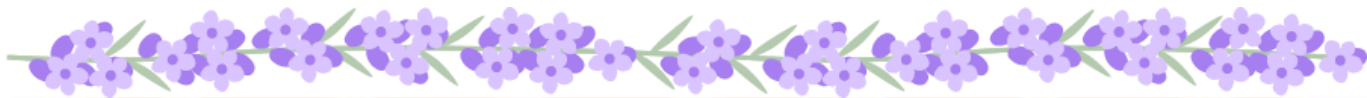
眼鏡をつくる時、「今以上によく見える眼鏡にしたい」と思っている方は多いと思います。

目は見るものに合わせて毛様体筋という筋力を働かせ、レンズ(水晶体)の厚さを調節しピント合わせをしています。日常生活では遠くを見たり、近くを見たりとさまざまな距離のものをみっていますが、遠くに視力を重視して眼鏡をつくと近くを見るときは必要以上に目の筋力を使うことになり、眼精疲労や頭痛、肩こりなどの原因の一つになります。職業や免許などの視力の規定がある場合は別ですが、一般的に眼鏡をつくる時は、よく見える眼鏡というより見たいものが不自由なく見えて疲れない眼鏡にしてください。

また眼鏡にも寿命があり、使い方やレンズの素材にもよりますが、レンズの寿命は平均2~4年といわれています。ご自分の眼鏡を見て、レンズにキズがついていないか、コーティングがはがれていないか、フレームが曲がっていたりしないかなどセルフチェックをしていただき、気になる点があれば眼科や眼鏡店に相談してください。



【眼科 視能訓練士 佐々木 祐佳子】



大腸 CT 検診のご案内

~早期発見で守る、あなたの健康~



大腸 CT 検査は大腸を炭酸ガスで拡張させて CT 撮影し、大腸の 3 次元画像を作成することで病気の診断を行う検査方法です。

大腸 CT のメリット

- ・苦痛がほとんどありません
- ・問題となる合併症がほとんどありません
- ・検査時間は約 10 分と短いです
- ・麻酔を使わないので日常生活への影響は少ないです

こんな方におすすめです

- ・40歳以上の方
- ・健康診断の便潜血検査で陽性になった方
- ・初めて大腸検査を受けられる方
- ・大腸内視鏡検査に不安や抵抗を感じている方

※注意点※

- ・腫瘍の組織検査はできません。
- ・5 mm未満の小さな病変を見つける能力は内視鏡検査より劣ります。

料金 27,500 円(税込)

ご予約・お問い合わせは…

JR 仙台病院 地域医療連携室「検査・診療受付」

☎022-380-2317(直通)